

年月日 2012年11月02日(金)～08日(木)
回数 第五回・四国お遍路(通算歩行日数=23～27回)
参加者 後藤隆徳、高岡八千代、土屋弥生、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、陶山泰信(お遍路でなくランニング)=8名+1名

遍路寺

- 三十九番札所 延光寺(えんこうじ) 高知県宿毛市平田町中山390
ご本尊=薬師如来 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
メモ=時代の流れで昔風の遍路宿が無くなってゆくが、今なお旧来の姿を留めているのが若松屋。洗濯したての綺麗なカバーを付けた夜具を廊下のに積み、遍路とみれば声を掛ける。若松屋は3代続く遍路宿で主人の小林等さんが気持よく接待してくれる。
寺の山門を入れば、本堂、大師堂がある。神亀元年(724)聖武天皇の勅命で行基菩薩が薬師如来を刻み本尊として安置し、堂塔を建立したのが始まりという。
延暦14年(795)には弘法大師が暫く留まり、桓武天皇の勅願所として再興し、脇仏を安置して堂塔を整備し、霊水を湧かせて宝医水と名づけられた。一方、境内の池に棲んでいた赤亀が竜宮から鐘を背負って来たと伝える鐘には延喜11年(911)の年号が刻まれ、国の重要文化財になっている。納経朱印も亀。
16カ所の修行の霊場を打ち終え、ここから裏関所の観自在寺へと辿ることになる。
- 四十番札所 観自在寺(かんじざいじ) 愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城2252-1
ご本尊=薬師如来 おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
メモ=一本松、城辺から昔青蓮院の荘園だったという御荘の町へ。平城はこの町中にあり、観自在寺がある。大同二年、平城天皇の勅願所として弘法大師によって開創され、後に平城天皇は落髪し弘仁12年には弘法大師から灌頂を授けられた。
大師は一木に本尊薬師如来、脇仏阿弥陀如来、十一面観世音の3体を刻まれ、残りの霊木で舟形の南無阿弥陀仏の名号を刻まれた。この宝判は、大師が諸人の病根を除くことを祈願したものといわれ、現在もこの宝判でご利益を受けた人が多く、唾や盲目や心臓病が治ったという。昔は七堂伽藍が整い、46坊の末寺を有したが、その後火災で灰燼に帰し、延宝6年(1678)に再建されたが、昭和34年の失火で本堂が焼失し、現存の本堂はその後の建立。平城天皇の御陵に五輪塔があり「春の夜の籠人ゆかし堂のすみ」と記した芭蕉の句碑がある。
- 四十一番札所 龍光寺(りゅうこうじ) 愛媛県宇和島市三間町戸雁173

ご本尊=十一面観世音菩薩 おん まか きゃろにきゃ そわか
メモ=南伊予路をたどる。山の傾斜は急で海へせり出し、海面は穏やかな
大小の島が浮び美しい。宇和島から約10^{キロ}程で三間平野に出る。寺は間平
野を見下す小高い山の上であり、山上に諸堂が建ち並んでいる。縁起によ
れば、大同2年2月初午の日、弘法大師がこの地に巡錫すると、白髪の老
翁に導かれた。そこで大師はこの地が霊場であることを悟り、その尊像を
刻み、堂宇を建てて安置し、稲荷山龍光寺と号し、四国霊場の総鎮守とさ
れた。その後人々から稲荷寺として信仰され、明治の廃仏毀釈で旧本堂は、
稲荷社となり、これまで稲荷の本地仏であった十一面観世音が本尊となっ
た。

いまも参道入口に鳥居があり、正面石段を登りつめたところが稲荷社で、
本堂は参道途中の左手に、大師堂は右手にある。地元の人からは「三間の
稲荷さん」と親しまれ、商売繁昌や開運出世を願う人が多いという。

●四十二番札所 仏木寺(ぶつもくじ) 愛媛県宇和島市三間町字則 1683

ご本尊=大日如来 おん あびらうけん ばざら だどばん
メモ=仁王門があり、石段を登ると鐘楼、左の奥まったところに本堂、
大師堂がある。本堂左手にはかつての通夜堂がある。
縁起によれば、大同2年、この地を巡錫していた大師は、牛を引いていた
老翁に出会い勧められるままにこの牛に乗った。すると近くの楠の杖に一
つの宝珠が掛かっているのを発見した。この宝珠は大師が唐におられる時
有縁の地を選ばれるようにと、三鈷とともに東へ向けて投げた宝珠であっ
た。大師はこの地こそ霊地と直感し、楠で大日如来を刻み、その尊像のマ
ユの間に宝珠を納めて本尊とし、堂宇を建立して仏木寺とした。その後、
牛馬安全の守り仏として信仰を集めた。宗尊親王の護持仏や西園寺氏の祈
禱ならびに菩提所となったこともあり、慶安以降は藩主の保護によって伽
藍は再建された。

●四十三番札所 明石寺(めいせきじ) 愛媛県西予市宇和町明石 201

ご本尊=千手観世音菩薩 おん ばざら たらま きりく そわか
メモ=齒長峠を越えて約15^{キロ}。宇和町よりは約5^{キロ}程、静寂な山道に入
る。仁王門からは、山を背景に唐破風造りの本堂がみえる。
欽明天皇の勅願により、円手行者が千手観世音を安置し、七堂伽藍を建立
して開創し、後の天平6年(734)には寿元行者が、紀州熊野より十二
社権現を勧請して十二坊を建立し、修験道場として法灯を伝承した。
やがて弘仁13年(822)弘法大師が巡錫し、嵯峨天皇の勅願により荒
廃した伽藍を再興して霊場に定められた。また、建久5年(1191)に
は源頼朝が池の禪尼の菩提のため阿弥陀如来を造顕し、経塚を築いて堂宇
を再興し、山号を「源光山」に改めている。現存の御堂は宇和島藩主伊達
氏が寛文12年(1672)に建立したもの。第35世の尊栄が西園寺氏

と縁戚関係を結んでから、寺は明石家代々の世襲による管理となった。
次の大宝寺への途中、大師が橋の下で一夜をすごされた番外・十夜ヶ橋がある。

第1日目 11月02日（金・晴） 歩行=なし

清水町4：00－ヨ一カ堂前4：10－下土狩駅4：15－なめり駅4：
20－竹沢種苗店4：20－東名一浜名湖SA－新名神－淡路SA11：
20－土佐清水・旅館「南粋」17：00（泊）

前回最終地は土佐清水市の清水港。静岡から約800Km。従って今回の一日目はバスで清水港に行くだけ。しかし、一連のバス事故の影響でバス運転手は距離的に二名が義務になった。だが、四国まで運転手が二名行くと経費が掛かる。

そこでD観光社長が考えた方法は、大津まで二人で行き、社長がそこから電車で帰るというもの。帰りは社長が大津まで電車で来て、そこで運転を交代する。それなら法律的に問題はないという。そんな訳でD観光には世話になった。

バスは順調に大津まで行き、社長は電車で帰った。バスは17時頃、土佐清水港着。宿は清水港がすぐの「南粋」。まあまあ旅館だった。翌日は山越えがあるので、お弁当を作ってお茶を付けてくれた。

第2日目 11月03日（土・晴） 通算歩行日数=23日 距離=約27.5Km

土佐清水港発6：50－松崎海岸8：00－益野8：50－島の内林道一昼食
12：00～12：45－峠13：00－三原村15：00－ふれあいの里15：
30－「鶴の家旅館」16：00（泊）

6：50お遍路開始。三十九番札所・延光寺を目指す。実は三十八番札所・金剛福寺から延光寺まで6コースある。最長が72.5km、最短が50.8km。

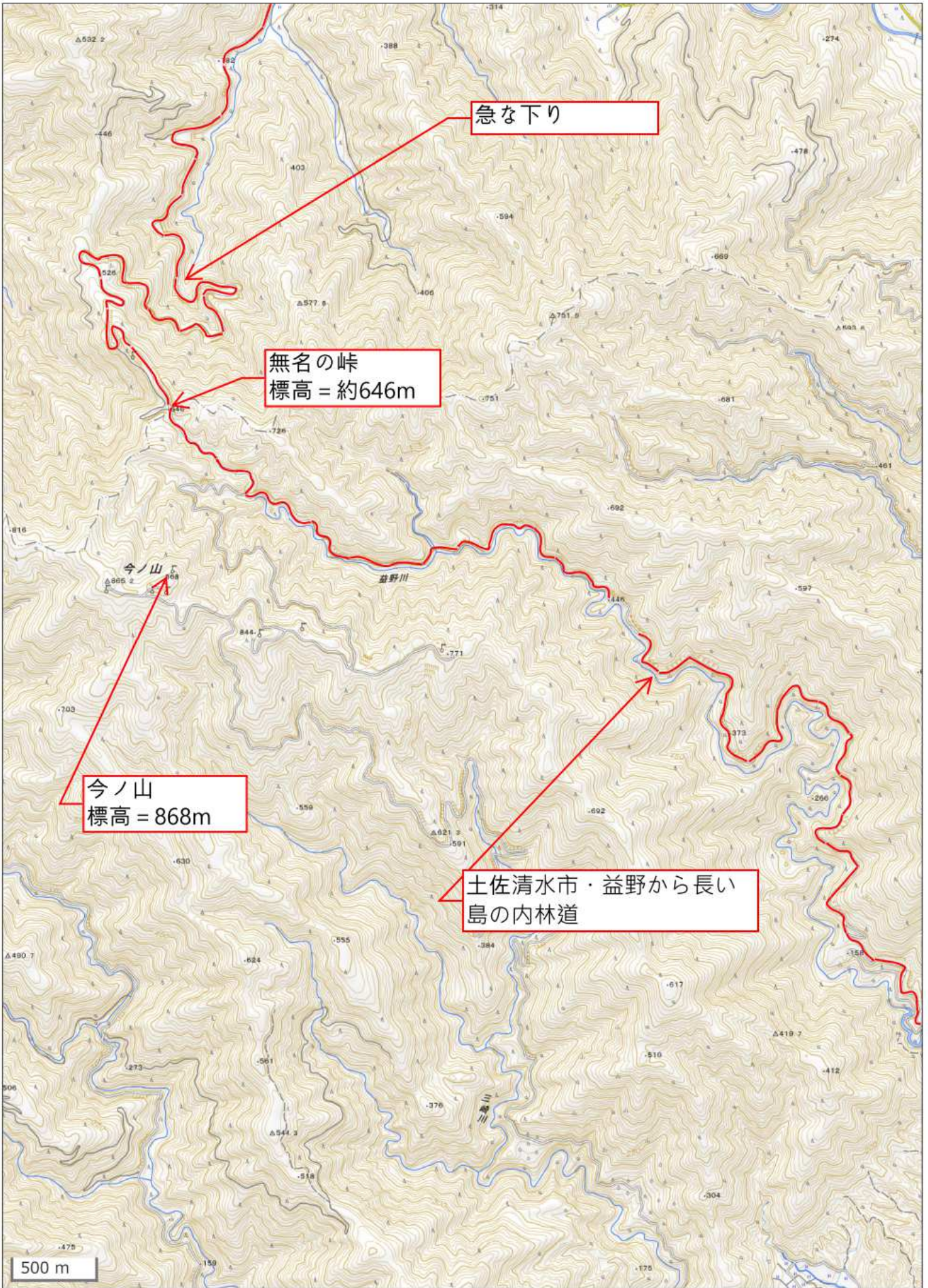
選んだコースは53.1kmの益野～今ノ山（868m）経由だった。コースは短いが高標高646mの峠越えがある。

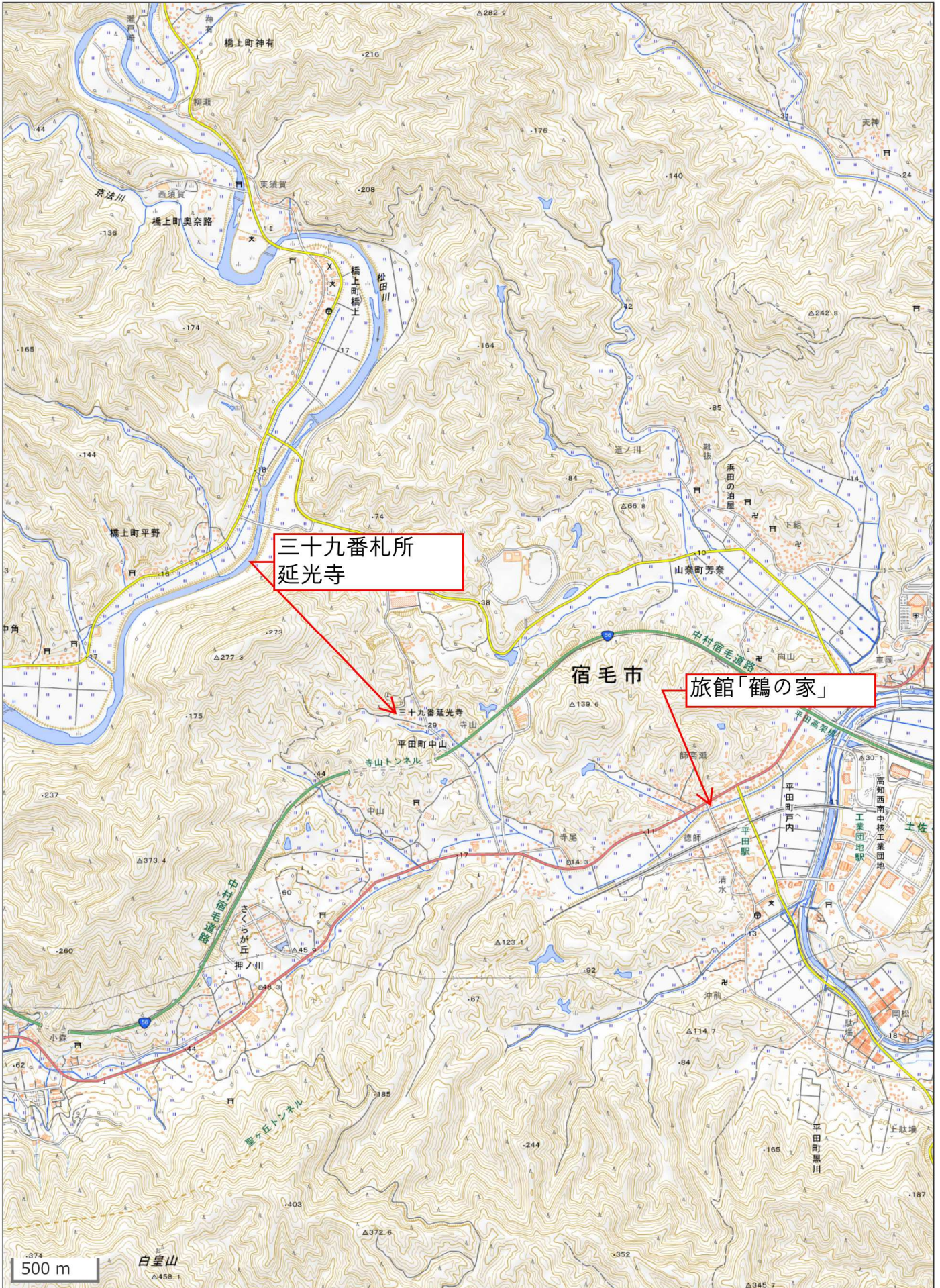
しかし、伊豆巡礼でも720mの戸田峠を越えているので問題はないと考えた。ただ、結果的にこのコースは、戸田峠のように急でない分、車道がウネウネと長く参った。

宿から松崎海岸に行く。海岸は「化石漣痕（れんこん）」と呼ばれる珍しい現象があった。益野に着き田舎道を進む。温室農家に感じが違う犬がいた。聞けば「奄美大島の奄美犬」と言った。

前述の峠に向かう。途中、道路工事でバスが行けないと運転手が止まっていた。

だが、乗用車は盛んに通行していた。看板が古いと意見の一致をみてバスに来るように連絡したが、結局、少し待ったようだ。







D観光社長



旅館「南粋」



お昼近くようやく峠着。宿の弁当を食べた。昼の弁当はこれで二回目。Tさんにおむすびを一個いただいた。

峠は何故か名称が無かった。林道は「島の内林道」の看板があった。午後の下りは上りとは逆で物凄い急下降から始った。道路の長さが上りの三分の一だから、その分急な訳。グングン下って三原村着。時間も遅くなり疲れた足を引きずって行く。

道路脇に「どぶろく祭り」の幟が沢山立っていた。近くの「三原村特産物展示販売所」で祭りをやっていた。

しかし、祭りは15時まで。既に時計は15時を回り、お客はゾロゾロ帰り始めていた。「寄ろうかな」と思ったが、時間が押しているので「生唾をゴクリ」と鳴らし諦めた。後日譚だが、この「どぶろく祭り」に何故寄らなかったと、皆に延々と責められた。(笑)

今日は先の「ふれあいの里」前で終了。今日は疲れた。宿は平田の「鶴の家旅館」。小さい宿だが、まあまあだった。

風呂上りにユカタで近くの酒屋に行ったら、寒くてちょっと風邪気味になってしまった。



島の内林道



可愛い仲居さん



鶴の家旅館
宿の主人

第3日目 11月04日(日・晴) 通算歩行日数=24日 距離=約29Km
 バス宿発7:00-お遍路開始7:10-「鶴の家」8:20-三十九番
 札所・延光寺9:00~30-宿毛・食堂「あすなろ」11:35~12:
 40-宿毛貝塚13:00-小深浦集落-松尾大師14:50-一本松1
 6:00-旅館「あけぼの荘」16:05(宿)

天気は良かった。バスで昨日の最終地、清水川に戻りお遍路開始。向かいに有名な「清水川荘」があった。大きな蜚湖の長い橋を渡る。向こうから逆打ちの若い衆やって来た。頭は坊主で眼鏡に髭を生やしていた。年齢は三十前後だろうか。

しばし歓談。高知在住で一気歩き。だが、逆打ちの意味を知らなかった。「若いのに何故?」「仕事は?」とオバサマ達が矢継ぎ早に詰問。しかし、ニコニコして明快な答えはなかった。結局「訳あり」が結論だった。以後、この「訳あり」が今回のお遍路の流行語になった。ダムからグングン下っていくと結局「鶴の家旅館」前に出た。三十九番札所・延光寺は近い。

延光寺の坂道を上って行くと昨夕、清水川荘付近でウロウロしていた外人夫婦が降りて来た。宿があったか心配だったが、聞いたら問題はなかったようだ。外人さんには親切にして上げたいものである。

延光寺の境内には珍しく「みやげもの屋」があった。「大師せんべい」「土佐文旦」などが並べてあった。Sちゃんが「大師せんべい」を購入した。寺は他に市天然記念物の「寺山のいぶき」「大赤亀の石像」があった。

寺を辞し道は宿毛市に入っていく。大きな松田川が流れていた。先に「工業富国基」の大きな石碑があった。どうも四国に来たらやたらと「石碑」が目立つ。



外人さん

「訳あり」若い衆



三十九番札所
延光寺



金剛杖の受け板



食堂「あすなろ」

川エビのから揚げ



個人的なものも多い。四国人は「石碑好き」と見た。石碑は、元首相・吉田茂の父・竹内 綱と兄のものだった。

昼食の時間で近くの「翌檜（あすなろ）」に入る。店はなかなか良かった。まず、ビックリしたのが店に金剛杖を受ける板があったことだ。金剛杖は弘法大師の化身であるからそれは分かる。ただ、そこまで大師崇拝にこだわるのを見たのは四国お遍路で初めてだった。

また、笑ってしまったのが店の壁に「用事がある時は、パンパンと手を2回叩いて下さい」とあった。では、パンパンパンと3回では駄目なのかと、すかさず混ぜっ返した。

「川エビのから揚げ」「うなぎ」「トンカツ定食」を食べた。飲み物は「ごっくんうまじ」があった。これは焼酎を高知産のニューサマーオレンジの絞り汁で割って飲むものだが、ネーミングがユニークで面白い。主人は気さくな方で超フレンドリー。旅の疲れはすっ飛んだ。

店の前で子息と記念写真を撮って午後を開始。宿毛市内を抜けて「宿毛貝塚」前を通過し山路に入っていく。山路はなかなか雰囲気良かった。途中の農家に大きな柿がたわわに実っていた。物欲しそうに映ったのか農家のオジサンが柿のお接待してくれた。お母さんも出てきてニコニコしていた。

先に、「土佐の褐牛（あかうし）」が数頭いた。立派な看板にお遍路さんのメッセージがあった。「もうすぐ伊予やけん ことおたら（♥）ちいと 休まんかね」と。

確かに先の松尾峠で長かった「修行の道場」の高知県は終わり、待望の「菩提の道場」の愛媛県に入る。峠から山路を急激に下り、松尾大師を経由し、一本松に到着。今日はここで終了。宿はすぐ近くの一本松温泉「あけぼの荘」。まあまあ宿だった。

第4日目 11月05日（月・朝小雨のち晴）歩行日数＝25日 距離＝約30.5Km
バス宿発7：15－お遍路開始7：30－四十番札所・観自在寺9：50～10：20－鳥越トンネル－茶房「泰山」－津島「三好旅館」16：45（泊）

朝は小雨が降っていた。バスで一本松に戻り出発。丁度、中学生が登校時間で挨拶をしながら自転車で走って行く。私も中学時代自転車通学だったのを思い出した。でも、挨拶はしなかったと思う。

途中、立派なお遍路休憩所があった。トイレ・水道完備。ベンチと屋根があるので宿泊が出来る。100L位の大きなザックを持った青年がいた。雨模様の天気ですて、今日はどうしたものか」といった風情。四国お遍路は、意外と若い衆が多いのに驚く。若いなりに「煩惱」があるのか。

これを過ぎ田舎道を下って行くと僧都川の堤防に出る。向こうから黄色いポンチョを着た単独・逆打ちのオジサンがやって来た。僧都川に架かる橋を幾つかやりすごすと右手に四十番札所・観自在寺が見えた。愛媛県最初の寺だった。階段を上り境内に入る。小雨の中、お勤め。境内の壁に印象的な仏像が彫ってあった。



寺を辞し暫く歩いていくと、道端にイノシシの毛皮が頭つきで数頭並んでいた。気持ち悪く、路上に並べるとは趣味が悪い。昼食は適当な所がなく、バスで「愛南食堂」に行き「サバ定食」を食べた。

愛南町役場内海支所に来ると、道は標高460mの峠を越える清水大師と一般下道に分かれる。前者は、遍路道だが、標高460mは半端でない。迷わず下道を選ぶ。



自転車通学

四十番札所 観自在寺



安全な トンネル





海沿いに歩いていくと「鳥越トンネル」があった。トンネルは、車トンネルの脇に「歩行者専用」のトンネルがある有難いものだった。

このようなトンネルは、四国に来て初めてだが、安全でなかなか良かった。また、マンホールの蓋は滑り止め模様で、お遍路さんに「配慮」している設計だった。

トンネルから車道を下って行くと、清水大師のお遍路道と合流した。茶房「泰山」があった。美味しいそうなお菓子が並んでいて購入する仲間がいた。今日はここで終了。バスで津島の「三好旅館」に向かった。

宿の玄関には雄雌の河童像があった。宿の作りは重厚で感じが良かった。料理はサイコー。疲れた体に綺麗に飾った「ソーメン」が美味しかった。

第5日目 11月06日(火・晴) 通算歩行日数=26日 距離=約32Km

バス宿発6:15-お遍路開始6:30-馬目木大師-昼食-四十一番札所・龍光寺15:00~30-四十二番札所・佛木寺16:00~30-民宿「とうべや」16:45(泊)

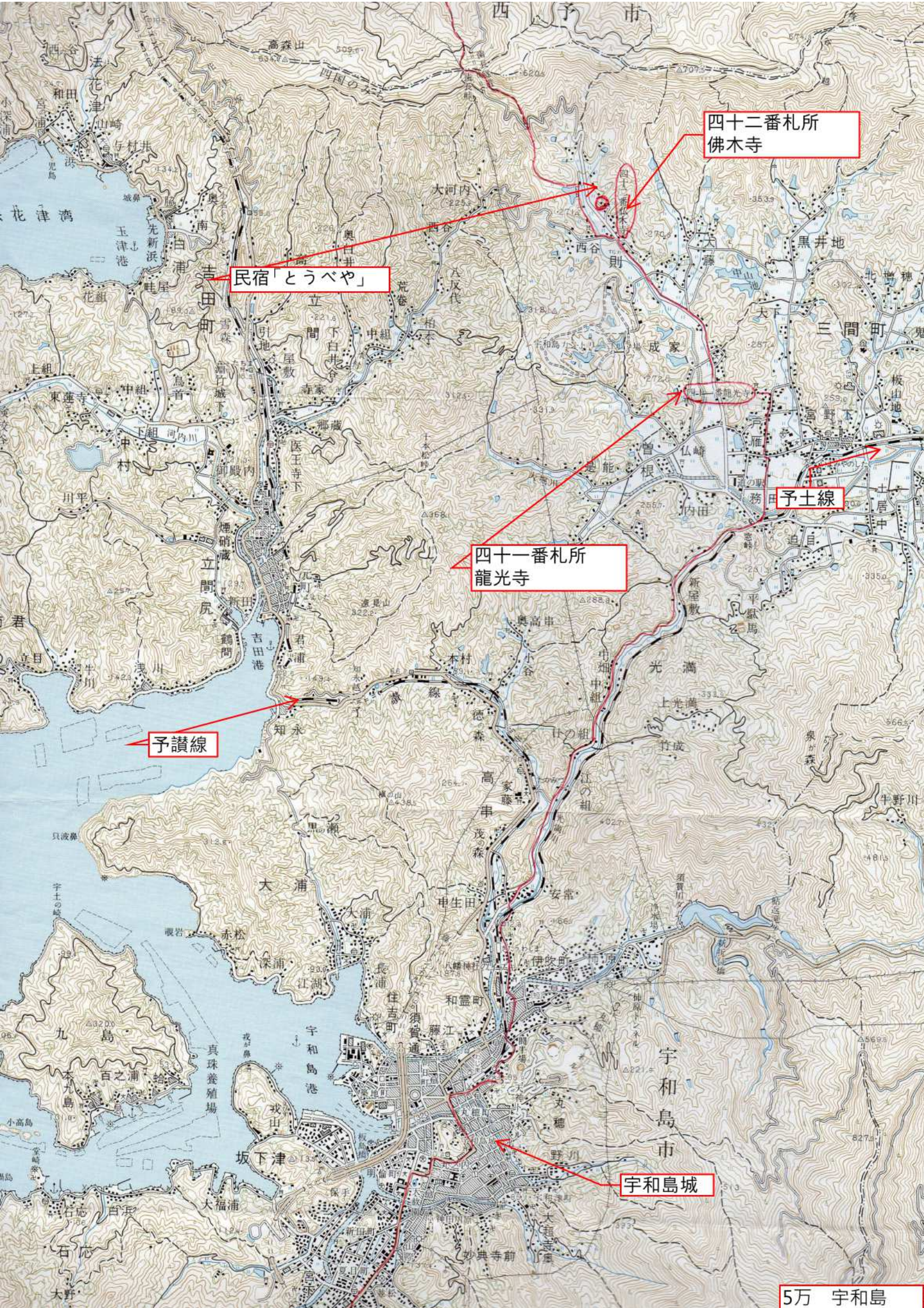
宿の朝食は豪華で朝から「メロン」が出た。量が多くて難儀した。バスで昨日の最終地まで戻り出発。今日はいいい天気だった。

岩松川に沿って北上。昨夜の宿「三好旅館」を眺めて更に川沿いを進む。向こうから白い大型犬を連れたオジサンと単独・逆打ちのオジサンがやって来た。軽く挨拶。また、ここも自転車通学が多かった。

松尾トンネルに向かう。トンネルの西にお遍路道があるが、標高は220m。登山口に遍路小屋がある。小屋の壁に可愛らしいお遍路さん絵画があった。ルートはトンネルを選択した。長さは1710m。思ったほど長さは感じなかった。

トンネルを抜け宇和島市に入って行く。魚屋に見たことがない、カブトガニみたいなものを売っていた。ブラブラ行くと山の上に「宇和島城」が見えた。時間があれば寄りたい所だが・・・。右手に、大きく立派な龍光院があった。(寺でない)

最初、ここが龍光寺と思った。JR予讃線を渡ると急に田舎になった。トイレに困り途中で借りた。緩やかに上っていくとやがて田園地帯になった。四十一番札所・龍



四十二番札所
佛木寺

民宿「とうべや」

四十一番札所
龍光寺

予讚線

予土線

宇和島城

光寺は先にあった。境内は長〜い階段を上って行く。

ただ、ちょっと時間が半端に迫り、次の佛木寺まで歩くとご朱印を貰えない可能性がある。結局、私が一人走って先行した。距離は2.6 Km。途中の広大なコスモス畑に癒された。ご朱印は首尾よく頂けた。時間が遅かった性か、係はいかにも面倒臭そうに筆を走らせ感じが悪かった。

皆も案外早く来た。今日の宿「とうべや」は近かった。しかしこの宿は、いろいろと問題があった。



四十一番札所
龍光寺



民宿「とうべや」



四十二番札所
佛木寺



民宿「とうべや」は、辺りでここしかない独占企業。宿はちょっと変わった感じの年配のオヤジが基本的に一人でやっている。お客さんが多い時は、近所の女性が手伝に来る。そんな訳でもないだろうが、畳はちょっと埃っぽかった。何か掃除が行き届いていなかった。

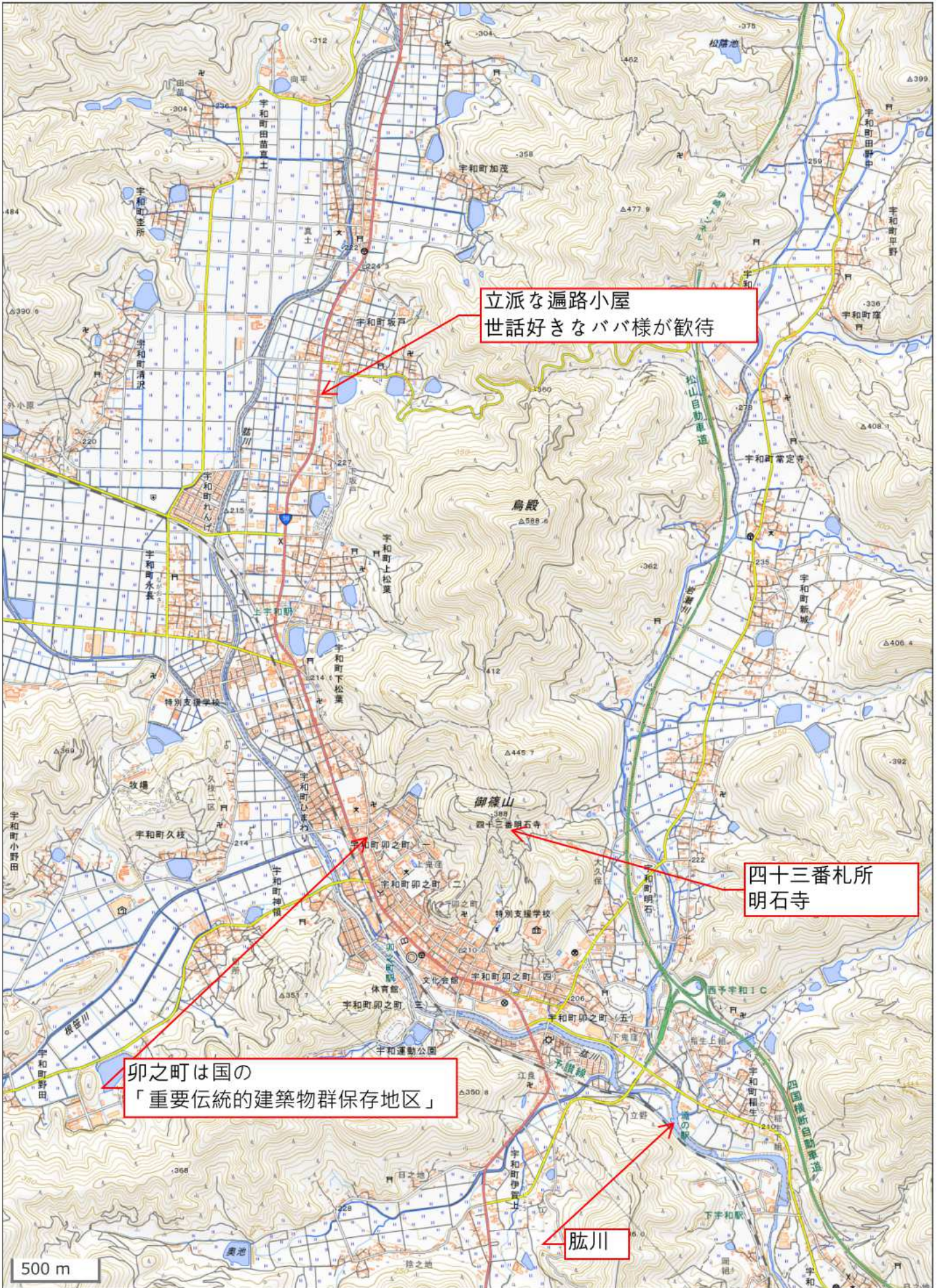
極めつけは女性が入った風呂だった。二つあり男性は左の風呂に入った。女性は右の風呂に入ったが、風呂は普段使っていない風呂で、掃除が行き届いていない。入ったら浴槽がヌルヌル・ヌメヌメで気持ち悪かったそうだ。夕食時、それが話題になったが、オヤジ曰く「入りながら掃除しろ」だった。

それはないだろうと、女性軍は大いに怒り、宿泊代をまけろと言ったら、「俺は金を貯めるのが趣味だ」で取り合わなかった。ま、いい方なのだろうが、全体的にサービス精神に欠けるクソオヤジだった。四国には、こんな宿もある。

第6日目 11月07日(水・晴) 通算歩行日数=27日 距離=約30Km
バス宿発6:00-お遍路開始6:15-歯長峠7:30-四十三番札所・
明石寺9:30~10:00-松山自動車道・大洲北只IC付近15:
30-大洲「ふるさと旅館」16:00(泊)

歩きは今日が最終日。バスで佛木寺に戻りお遍路開始。まだ暗かったが、今日も天気は良い。歯長峠に向かう。松山自動車道脇から山路に入る。峠には造林記念の大きな石碑があった。快適な山路を歯長地蔵に下り肱川に出る。途中、旦那さんが大きな荷物を背負ったご夫婦お遍路に会った。荷物からするとテント泊のようだ。

川沿いにブラブラ下っていくと正面に明石寺があった。本来は「あげいしじ」と呼ぶそうだ。長い坂道を上って標高280mの境内に入る。山門が大きく立派だった。お勤め後、山門で記念写真を撮り反対側の山道を下山。宇和町卯之町は宿場町風情を





癒し絵



路傍の達磨像



四十三番札所
明石寺

残す美しい街並みが続いていた。国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。先のお接待ステーションで午前は終了。ステーションは新しく無人だが、籠があって、お菓子・ミカンが入っていた。壁に今まで世話になった人の礼状とか、金・赤・緑のお札が所狭しと額に入れて飾ってあった。

お昼はバスで近くのレストランに入った。昼食から帰ってバスから降りると、お接待ステーションに何やら軽トラックのオバサンがやって来て荷台から野菜・ミカン・お菓子を出して持って行けと言う。オバサンは近所の方だが、お遍路さん接待が大好きのようなのだ。

この後も喫茶店でお茶を飲もうとかお誘いを受けたが、そうゆっくりも出来ない。

お断りして先を急いだが、帰静後、礼状を出した。

車道は穏やかに上り鳥坂隧道にさし掛かった。隧道はお遍路さんの安全歩行を考え、入り口に「反射タスキ」を沢山置いてあった。皆さんはタスキを肩に掛け、私は杖の先につけて目立つように歩いた。トンネルを抜け下って行くと松山自動車道を潜る。そして、先で今回のお遍路は終了した。

宿は大洲の「ふるさと旅館」。まあまあの宿だった。夕食が終わって飲ん兵衛がグダグダやっていた。私が無気なく聞いたら、主人の大学は三島市の日大で「長泉町に下宿していた」ことが分かった。うわ～、これは凄いご縁！！

飲ん兵衛の長尻がイヤ顔だった主人は、これで大いに盛り上がったことは言うまでもない。長泉から東レ脇を歩いて通学したとか、一緒に下宿していた「沼津高専の学生は物凄く勉強」をしていたと、懐かしそうに話をしていた。

第7日目 11月08日(木) 晴 歩行距離=なし

バス宿発7:10—松山道—徳島道—淡路島—名古屋—静岡—長泉町18:00ころ

今日は静岡に帰るだけ。バスの車窓から「富士山」(とみすやま)が見えた。富士山みたいな格好いい山だ。大洲富士と呼ばれている。主人・奥様に見送られ出発。

今回も無事に終わって何より。ご苦労様でした。感謝・多謝。合掌。



美しい街並み



単独お遍路さん



安全タスキ

「ふるさと旅館」ご夫婦



一人お遍路さん



綺麗で美味しいソー（メン）

う～ん、
なかなか
素敵！！



世話好きオババさま



大洲・富士山（とみすやま）



切り抜き帳

化石漣痕・・・漣痕（れんこん、あるいはリップルマーク）とは、堆積層の表面を水や空気が流れることにより、周期的な波状の模様が作られた規則的な微地形のこと。地表（風雪地帯や砂丘等を含む）、河床、海底などに形成され、堆積物（堆積岩）に見られる漣痕により、当時の流れの方向を推定することができる。岩石の表面に刻まれた痕跡をリップルマークと呼ぶが、未固結な状態を含み総じてリップル（ripples）ともいう。



2000/05/07

- 清水川荘・・・三十八番札所・金剛福寺～三十九番札所・延光寺との遍路道沿いにある。歩き遍路の方の遍路宿として利用出来る。
- 宿毛貝塚・・・宿毛貝塚は、縄文時代後期（約3,500年前）の貝塚で、昭和32年7月27日に国の史跡に指定されました。ここからは縄文土器及び石器、獣骨、魚骨、貝類などが出土し、人骨も発見された。
- 煩惱・・・仏教の教義の一つで、身心を乱し悩ませ智慧を妨げる心の働き（汚れ）をいう。同義語として、漏（ろ）、随眠（ずいめん）等、数多くの表現が用いられもする。仏教では、人の苦の原因を自らの煩惱ととらえ、その縁起を把握・克服する解脱・涅槃への道が求められた。部派仏教の時代になると、煩惱の深い分析が行われた。
- 宇和島城・・・四国の愛媛県宇和島市丸之内にあった日本の城である。江戸時代は宇和島藩の藩庁となった。城跡は国の史跡に指定されている。
- 予讃線・・・瀬戸内海と宇和海に沿って香川県高松市の高松駅から愛媛県松山市の松山駅を経て、愛媛県宇和島市の宇和島駅に至る四国旅客鉄道（JR 四国）の鉄道路線（幹線）である。このほか愛媛県内の向井原駅から内子駅までと、新谷駅から伊予大洲駅までの支線を持つ。この2つの支線は、内子駅から新谷駅までの内子線を経由して繋がっており、向井原駅 - 伊予大洲駅間を結ぶ短絡ルートを形成している。
- 富士山・・・（とみすやま・319.8m）は、愛媛県大洲市柚木にある山である。別名「大洲富士」と呼ばれている。